

第135回 (令和5年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

貸出先名	商品名	単価	日数
みのりや	A	6,000	13
田中商事	B	11,600	12
月山物産	C	17,500	9
一丸商店	D	7,200	10
東ストア	A	6,000	11
あかり堂	B	11,600	8
木村運送	C	17,500	5
大山水産	D	7,200	6

<処理条件>

- <出力形式>のような請求額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 貸出料金=単価×日数
割引額=貸出料金×7%
請求額=貸出料金-割引額
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

請求額一覧表

貸出先名	商品名	単価	日数	貸出料金	割引額	請求額
合計	――	――				
平均	――	――				

第135回 (令和5年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

CO	社員名	出張日数	契約額
101	井上 五郎	7	3,594,300
102	大川 愛奈	13	4,450,800
103	大八木 哲	10	4,000,000
104	南 かおり	9	3,891,200
105	中森 秀夫	14	4,237,400
106	加藤 マイ	11	4,839,600
107	杉山 勇気	8	3,852,700
108	小林 美保	6	3,600,000
109	森 真由美	12	4,395,100

<乗率表>

契約額	乗率
4,000,000 以上	1.8%
それ以外	1.6%

<処理条件>

- <出力形式1>のような社員別支給額一覧表を作成しなさい。(――の部分には空白とする)
- 出張手当=3,600×出張日数
- 乗率は<乗率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
営業手当=契約額×乗率 (整数未満切り捨て)
支給額=出張手当+営業手当
- 支給額の多い順に順位をつけなさい。
- 合計を求めなさい。
- 営業手当の少ない順に並べ替えなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式1>

社員別支給額一覧表

CO	社員名	出張日数	出張手当	契約額	乗率	営業手当	支給額	順位

(途中省略)

――	合計				――			――

<出力形式2>

	出張手当	契約額	営業手当
平均			
最大			

第135回 (令和5年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

販CO	販売先名	商CO	販売数
101	新日本商事	11	400
102	青山商店	13	371
103	J S L物産	12	316
104	丸田水産	11	336
105	ヤマヨ食品	13	380
106	杉本商会	14	415
107	ささき青果	12	368
108	太陽市場	14	347

<商品テーブル>

商CO	商品名	原価
11	E商品	3,960
12	F商品	4,720
13	G商品	3,740
14	H商品	4,280

<値引率表>

販売額	値引率
200万以上	⇒ 7.8%
180万以上 200万未満	⇒ 6.7%
180万未満	⇒ 5.6%

<処理条件>

- <出力形式1>のような販売先別利益額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 商品名・原価は<商品テーブル>を表検索しなさい。
- 売価=原価×1.27(整数未満切り上げ)
販売額=売価×販売数
- 値引率は<値引率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
請求額=販売額×(1-値引率)(整数未満切り捨て)
利益額=請求額-原価×販売数
- 販売数が380未満で利益額が270,000以上に“**”、それ以外に“*”の判定をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 請求額の降順に並べ替えなさい。
- 販売先別利益額一覧表の原価のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。すべて¥表示とする。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 販売先別利益額一覧表の請求額の値を販売先名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“販売先別の請求額”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

販売先別利益額一覧表

販CO	販売先名	商CO	商品名	原価	販売数	売価	販売額	値引率	請求額	利益額	判定
(途中省略)											
――	合計	――	――	――		――		――			――

<出力形式2>

	販売額	請求額	利益額
平均			
最大			
最小			

第135回 (令和5年12月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準1級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

部CO	部品名	数量	部品原価
11	部品E	921	7,315
12	部品F	893	8,406
13	部品G	915	5,861
14	部品H	930	6,589

※<出力形式1>で使用する。

依CO	依頼先名	部CO	加工数
101	南四国工業	12	453
102	マキノ製作	13	490
103	朝日テクノ	11	432
104	山田製作所	14	480
105	NKC電工	12	440
106	久保山工機	11	489
107	東日本電機	14	450
108	大川精工所	13	425

※<出力形式2>で使用する。

<賃率表>

数量	部品原価	賃率
930以上	または 8,400以上	12.8%
それ以外		13.7%

<評価表>

加工数	支払総額	評価
490未満	かつ 53万以上	A
490未満	かつ 43万以上 53万未満	B
それ以外		C

<処理条件>

- <出力形式1>のような加工単価計算表を作成しなさい。
- 賃率は<賃率表>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
加工単価=部品原価×賃率(整数未満切り上げ)
割増単価=加工単価×0.36(整数未満切り捨て)
- <出力形式2>のような依頼先別支払総額一覧表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 部品名・加工単価は加工単価計算表を参照しなさい。
- 加工賃=加工単価×加工数
割増金=割増単価×(加工数-350) ※割増単価は加工単価計算表を参照する。
諸経費=(加工賃+割増金)×5.4%(10位未満四捨五入)
支払総額=加工賃+割増金+諸経費
- 評価は<評価表>を参照し、求めなさい。
- 合計を求めなさい。
- 割増金の少ない順に並べ替えなさい。
- 依頼先別支払総額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- <出力形式2>の加工賃・割増金を依頼先名別の積み上げ横棒グラフにしなさい。
タイトルは“依頼先別の比較”とし、凡例は“加工賃”、“割増金”とする。

<出力形式1>

加工単価計算表

部CO	部品名	数量	部品原価	賃率	加工単価	割増単価
(途中省略)						

<出力形式2>

依頼先別支払総額一覧表

依CO	依頼先名	部CO	部品名	加工数	加工単価	加工賃	割増金	諸経費	支払総額	評価
(途中省略)										
――	合計	――	――		――					――

<出力形式3>

加工数が440以上の支払総額の合計	
割増金が35,000円未満の加工賃の平均	

第135回（令和5年12月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。
(例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期] →前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。)
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。
(例：初段101日検太郎)

問題

<入力データ> (各28件) ※テキストデータはSPSフォルダー内のデータを使用する。

[データA表]

CO	出発日	帰着日
101Z	2023/11/1	2023/11/3
101Z	2023/11/7	2023/11/10
101Z	2023/11/15	2023/11/19
101Z	2023/11/27	2023/11/30
102X	2023/11/6	2023/11/8
:	:	:

[データB表]

CO	出発日	商談数	契約数	契約額
101Z	2023/11/1	12	5	494,000
101Z	2023/11/7	28	11	1,000,000
101Z	2023/11/15	20	5	478,000
101Z	2023/11/27	21	12	1,046,000
102X	2023/11/6	26	18	1,750,000
:	:	:	:	:

<出張基本単価テーブル> [テーブル]

等級	出張基本単価
X	2,500
Y	2,300
Z	2,100

※等級はCOの右から1文字目。

<乗率表> [テーブル]

成約率	契約数			
	0~9	10~14	15~19	20~
0%~39%	0.1%	0.6%	1.1%	1.6%
40%~49%	0.2%	0.7%	1.2%	1.7%
50%~59%	0.3%	0.8%	1.3%	1.8%
60%~69%	0.4%	0.9%	1.4%	1.9%
70%~	0.5%	1.0%	1.5%	2.0%

<社員テーブル> [テーブル]

CO	社員名	月目標額(万)
101Z	若林 進	310
102X	川村 美月	498
103Y	沖本 瞬	362
104X	山形 あい	380
105Y	小森 広	582
106Z	池田 治	482
107Y	大月 花子	500

<処理条件>

- <入力データ> (テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式)、<出張基本単価テーブル>を使用し、<出力形式1>のような表を作成。 ※日付の表示は<入力データ>のとおりとする。

<出力形式1> [データA表]

CO	出発日	帰着日	出張日数	出張単価	宿泊日数
(途中省略)					
合計	—	—		—	

- 出張日数=帰着日-出発日+1
- 出張単価は、出張日数が5以上の場合、出張基本単価×105%、それ以外は、出張基本単価。
- 宿泊日数=出張日数-1

- <入力データ> (テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式)、<乗率表>を使用し、<出力形式2>のような表を作成。 ※日付の表示は<入力データ>のとおりとする。

<出力形式2> [データB表]

CO	出発日	商談数	契約数	契約額	成約率	営業手当
(途中省略)						
合計	—				—	

- 成約率 = $\frac{\text{契約数}}{\text{商談数}}$ (%の整数未満切り上げ)
- 営業手当 = 契約額 × 乗率 (100位未満切り捨て)

